

『七大寺巡礼私記』の研究

美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室・平城宮跡発掘調査部

前年度よりの継続研究である。『七大寺巡礼私記』の註解作製を主目的として、美術工芸・歴史・考古・建築の各分野共同して、記事の逐語的検討を行なうと共に、12世紀以前における南都七大寺の復原的研究を進めた。本年度は前年度に引続いて興福寺・西大寺・元興寺・唐招提寺（一部を残す）について一応の検討を加えた。昨年度発見された『十五大寺日記』逸文をもとにして、本年度は『巡礼私記』以外の縁起類との比較検討を行なったが、『興福寺流記』と『十五大寺日記』との間に何らかの関連が存在する可能性が考えられるに至った。これによって『巡礼私記』成立については更に文献学的研究を深めることができた。他の縁起類との比較研究については今後の重要な課題である。

なお資料の調査収集については『東大寺絵画目録』作製を始めとする七大寺所在の美術工芸品古文書類の調査を行なった。また七大寺以外に所在する資料についても調査を進めたが、その中には神宮文庫本『建久御巡礼記』や高山寺所蔵古文書聖教類中の南都諸寺関係資料等がある。

なお本研究は文部省科学研究費補助金（総合研究A 研究代表者 松下隆章）を受けた。